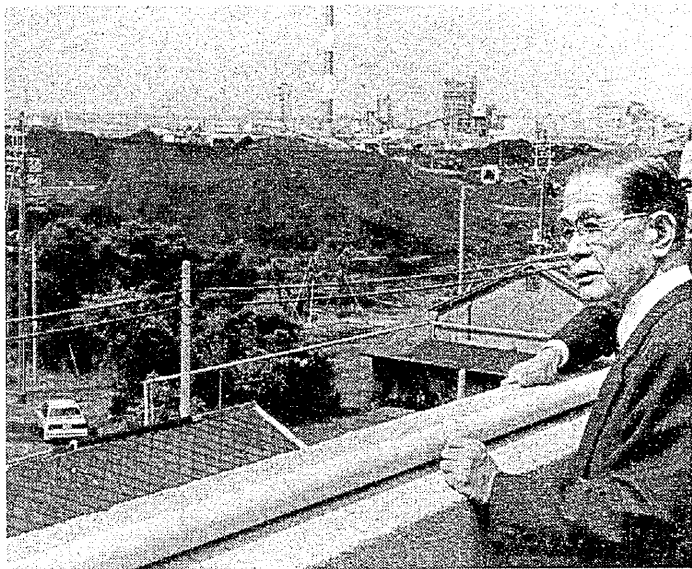


奥田知事が視察

大合理化で揺れる大牟田



港務所内の貯炭場を視察する奥田知事。

六月一日、奥田八二県知事が再び大牟田入りし、終日精力的に行政視察を行いました。市の基幹産業である石炭産業が、産業構造調整による第八次石炭政策の実施に伴い、三池炭鉱の合理化提案など予想をこえる急激な変化が起きている。この日奥田知事は、午前九時過ぎに市庁舎に入り、市当局からの説明を聞き、合理化による雇用対策、産業基盤整備企業誘致など地域活性化への協力を要請する。午後、関係団体の意見を聞き、今後、地域活性化への協力を要請する。午後、関係団体の意見を聞き、今後、地域活性化への協力を要請する。

六月五日、三池炭鉱の合理化提案を重視した社会党の現地調査団(市長・岡田利喜雄、副市長・八人)が大牟田入りしました。午前中は市当局や市議会、大牟田地評などの労働団体を相次いで訪れ、実情を聞くとともに意見や要望を受け、午後には荒尾市に入り、市当局や議会などの代表から要請を受けました。荒尾では、熊本県、大牟田市、荒尾市の行政代表から事情を聞き要望を受けました。調査団一行は、このあと閉山の高島視察のため長崎へ向かいました。

三池の合理化で 社会党が調査団

要拡大とともに、雇用と地域再開発のための企業が社会的責任を果たすことが重要」と語りました。表明、さらに企業努力とともに「市民とともに再生のために尽力したい」と決意を語りました。

衆院石特委が 現地実情調査

六月八日、衆議院石炭対策特別委員会の九州地区調査団(委員長・愛野豊一郎、理事十三人)が大牟田・荒尾を視察しました。

合理化にまげずに 婦人部が日帰り旅行

六月七日、三池炭鉱の婦人部は日帰り旅行を行いました。この日の目的地は日田川畔の亀山亭で、途中マイクパスで小石原民芸村を訪ね、やきもの、そして梅雨入り前の新緑にも癒される満喫。



車中では、途中まで参加した松岡部長から会社が行方についてくわしく説明をうけ、質問などをまじえて意気揚々していました。

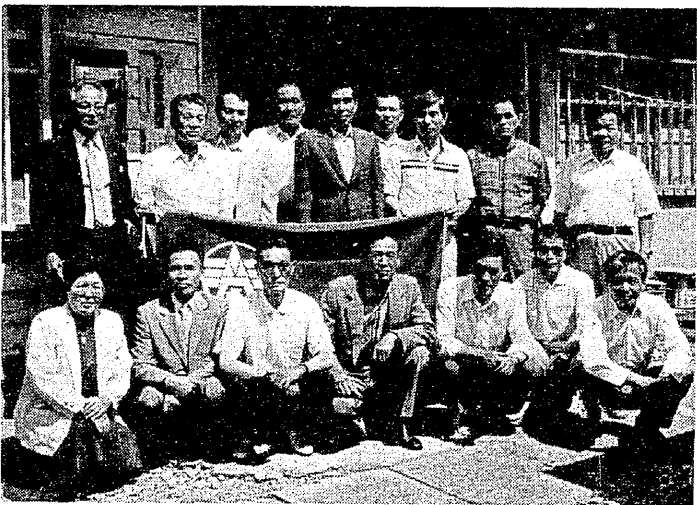
新日鉄水俣労組と交流 湯の目で太刀魚釣り

退職者旅行第二班の行事

五月三十一日、大牟田の待合室に炭鉱労働四十年を記念品とお土産の交換。記念撮影の生きたてきたすばらしい仲間たちが集まる。

八時十五分発特急有明三号に乗車。途中玉名で合瀬さんも合流し一路水俣へ。思い出話に花が咲き、車窓にうつる新緑、不知火の景色をながめるうちに水俣に着く。

駅頭には、水俣労組の山下委員長が出迎えられ、水俣闘争の思い出の場所を巡り、当時をふりかえりながら説明を受ける。



沖繩旅行に参加できなかった人の希望者による一泊旅行。いい思い出が刻めたかなあ。

三池炭鉱社宅の変遷

第七回

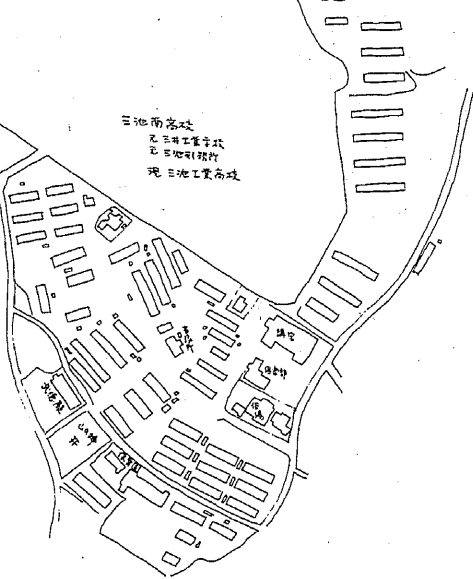
大正十三年の社宅

武松輝男

大正年代の三池炭鉱の納屋・長屋をみていくとき、見落せないのは騒擾時の従業員統制が非常にうまいことだ。大正七年の万田鉱の騒擾と十三年の三池騒擾である。全従業員二割から三割に満たない入居者であつても、三池騒擾の場合、争議収拾の要のない役割りを果たしたことは確かである。

大浦四十四戸で、全戸数五百四十戸のうち千五百三十六戸の入居と報告している。大正十三年までに建てられた長屋で、この入居調べに記載のない長屋と設立年を記してみよう。宮浦(明治二十二年)、四山与論(四十二年)、宮坂(大正七年)、上音(七年)、山ノ上(七年)、佐古(七年)、高砂(七年)、入船(七年)、妙見(七年)、七浦(七年)、八本(八年)、四山(八年)、大島(八年)、三川南(十年)、二頭山(十二年)、万田大谷(十二年)などである。

大浦四十四戸で、全戸数五百四十戸のうち千五百三十六戸の入居と報告している。大正十三年までに建てられた長屋で、この入居調べに記載のない長屋と設立年を記してみよう。宮浦(明治二十二年)、四山与論(四十二年)、宮坂(大正七年)、上音(七年)、山ノ上(七年)、佐古(七年)、高砂(七年)、入船(七年)、妙見(七年)、七浦(七年)、八本(八年)、四山(八年)、大島(八年)、三川南(十年)、二頭山(十二年)、万田大谷(十二年)などである。



大浦四十四戸で、全戸数五百四十戸のうち千五百三十六戸の入居と報告している。大正十三年までに建てられた長屋で、この入居調べに記載のない長屋と設立年を記してみよう。宮浦(明治二十二年)、四山与論(四十二年)、宮坂(大正七年)、上音(七年)、山ノ上(七年)、佐古(七年)、高砂(七年)、入船(七年)、妙見(七年)、七浦(七年)、八本(八年)、四山(八年)、大島(八年)、三川南(十年)、二頭山(十二年)、万田大谷(十二年)などである。

大正年代の三池炭鉱の納屋・長屋をみていくとき、見落せないのは騒擾時の従業員統制が非常にうまいことだ。大正七年の万田鉱の騒擾と十三年の三池騒擾である。全従業員二割から三割に満たない入居者であつても、三池騒擾の場合、争議収拾の要のない役割りを果たしたことは確かである。

大浦四十四戸で、全戸数五百四十戸のうち千五百三十六戸の入居と報告している。大正十三年までに建てられた長屋で、この入居調べに記載のない長屋と設立年を記してみよう。宮浦(明治二十二年)、四山与論(四十二年)、宮坂(大正七年)、上音(七年)、山ノ上(七年)、佐古(七年)、高砂(七年)、入船(七年)、妙見(七年)、七浦(七年)、八本(八年)、四山(八年)、大島(八年)、三川南(十年)、二頭山(十二年)、万田大谷(十二年)などである。

大浦四十四戸で、全戸数五百四十戸のうち千五百三十六戸の入居と報告している。大正十三年までに建てられた長屋で、この入居調べに記載のない長屋と設立年を記してみよう。宮浦(明治二十二年)、四山与論(四十二年)、宮坂(大正七年)、上音(七年)、山ノ上(七年)、佐古(七年)、高砂(七年)、入船(七年)、妙見(七年)、七浦(七年)、八本(八年)、四山(八年)、大島(八年)、三川南(十年)、二頭山(十二年)、万田大谷(十二年)などである。

大浦四十四戸で、全戸数五百四十戸のうち千五百三十六戸の入居と報告している。大正十三年までに建てられた長屋で、この入居調べに記載のない長屋と設立年を記してみよう。宮浦(明治二十二年)、四山与論(四十二年)、宮坂(大正七年)、上音(七年)、山ノ上(七年)、佐古(七年)、高砂(七年)、入船(七年)、妙見(七年)、七浦(七年)、八本(八年)、四山(八年)、大島(八年)、三川南(十年)、二頭山(十二年)、万田大谷(十二年)などである。